

## 平成 30 年度第 2 回川崎市産業振興協議会会議録

### 1 開催日時

平成 31 年 3 月 12 日（火）14 時～16 時

### 2 開催場所

川崎市産業振興会館 11 階第 6 会議室

### 3 出席者

#### (1) 委員（14 名）

鹿住会長（専修大学商学部教授）、沈委員（日本女子大学人間社会学部教授）、岡田委員（明治大学経営学部教授）、岩井委員（川崎商工会議所常務理事・事務局長）、大西委員（神奈川県情報サービス産業協会常務理事）、石川委員（横浜銀行常務執行役員川崎地域本部長）、館委員（川崎地域連合事務局長）、中島委員（川崎工業振興倶楽部会長）、堤委員（川崎信用金庫常務理事）、出口委員（川崎市商店街連合会青年部相談役）、沼委員（川崎市工業団体連合会理事）、星野委員（神奈川県中小企業家同友会政策委員長）、安永委員（川崎市観光協会観光推進部長）、山根委員（川崎建設業協会副会長）

#### (2) 事務局

経済労働局長、産業政策部長、国際経済推進室長、産業振興部長、イノベーション推進室長、労働雇用部長、企画課長、企画課職員

### 4 議題（公開）

- (1) 川崎市中小企業活性化条例に基づく平成 30 年度の施策の検証について
- (2) 平成 31 年度経済労働局主要事業について

### 5 傍聴者

なし

## 6 会議の内容

(平成30年度第2回川崎市産業振興協議会開会宣言)

(会議成立及び会議公開、傍聴人の有無(今回は無し)を確認)

(会長の選出)

委員互選により、鹿住委員が会長に就任。

鹿住会長推薦により、岡田委員が副会長に就任。

以下、会議録

鹿住会長

議題(1)の「中小企業活性化条例に基づく平成30年度の施策の検証について」を、事務局から説明を。

企画課長 (資料1を説明)

鹿住会長

それでは、ご意見、ご質問ある方はどうぞ。

岩井委員

P20の受注機会の増大について。学校図書等に受注機会の増大があると考えている。現在、大手資本の受注機会が多いが、については条例に基づき市内の市内事業者の優先発注の理念が細部まで伝わっているのか、聞かせていただきたい。

企画課長

市内企業の優先発注については関係部署で委員会等において検討し、掲載しているような取組を実施しているところ。給食事業等を市内事業者が受託したことなどもあり、実績としては増加している。全分野を網羅できているわけではないので、今後取組んでいきたいと思う。

岩井委員

これから物品・サービスにも取組んでいただけるということだが、実際に市内の小売業の方が受注できない状況であるので、しっかりご認識いただければと思う。また、条例がしっかり行き渡ってこのような結果になっているのか、行き渡らずにこのような結果になっているのか、それにより検証方法も変わってくると思うので、それを踏まえて検討いただきたい。

堤委員

各事業について部会委員の検証意見があるが、後段の議題(2)の平成31年度事業については、具体的な提言について網羅されているという理解でよいか。

企画課長

継続的にコメントいただいているものについては、来年度反映させるべく所管部署に伝えている。また、新規予算のご意見については、時期的に即対応はできないので、その次の段階で対応すべく検討している。

経済労働局長

補足すると、基本的にいただいた意見を反映すべく検討する。ただ、意見の中でも、新しいテーマとして取組んでほしいという話もあれば、事業のやり方としてのアドバイスもある。そうしたアドバイスについては、事業実施するにあたり、ご意見を踏まえた体制などで進めている。また、新しいテーマについても、事業を進めていく中で、反映できる部分については極力取り込んでいる。ご理解いただければ。

鹿住委員

タイミング的に部会が2月の開催なので、来年度予算の審議が進んでいる段階ですぐに上

乗せするのは難しいと思う。内容によっては予算措置が必要なものもあれば、条例等の改正が必要なものもあると思う。あるいは、現場の運用でできるものもあると思う。運用でできる部分についてはできる限り反映しているということだと思う。

#### 国際経済推進室長

P18,19 が国際経済関係の事業について。P19 の検証意見では、海外展開についてリスクや失敗事例も教えてほしいという意見をいただいた。P18 に掲載したベトナムセミナー等では成功事例だけでなく失敗の事例もご紹介した。また、今年度実施のアンケートの結果反映のご意見については、本市はこれまでアジアを中心にすでに海外展開している企業を支援していただく、アンケート結果で今後海外展開を検討して企業向けの支援やアジア以外の地域についての支援を望む声があり、海外展開支援補助金の新設、現地でのマッチングサービスとして、商談候補のリストアップやアポイントメント等を行う制度を新たに整えた。そのような形で来年度事業に反映をさせている状況である。

#### 安永委員

P15 の観光振興事業・産業観光推進事業について。検証意見内で羽田空港の記述があり、まさにその通りだと思う。要するにこの意見は、羽田空港が川崎市から至近距離にあるので、より有効活用すべきであるということであると思うが、加えて、羽田空港が大きく変わろうとしているという認識をどのくらいの方がお持ちであるか。まさに、目の前にある羽田空港が 2020 年には生まれ変わりアジアでナンバー 1 の空港になる予定である。現在の一位は中国の北京空港であるが、元の地位を取り戻そうとしている。今後、羽田空港はオリンピックまでに横田空域について、一部の管制を日本が担うことが決まった。2020 年の夏くらいに、1 日 53 便、国際線の便数が増える予定である。成田空港からのシフトも増えると思う。1 年にしたら、最低でも 1 万 5,000 便ほど増えることになり、相当数の外国人が来日することが見込まれる。そこで、川崎の魅力を力強く伝えていき、川崎をアピールすべきと考える。例えば、藤子不二雄ミュージアム等のキャラクターの着ぐるみが空港の到着ロビーでチラシを配るだけでも大きな効果があると思うが、現在は地下一階の案内所で多言語のパンフレットを配架しているだけである。他の自治体に比べるとそれでも進んでいるとは思いますが、せっかく隣接しているので、もっと PR できたらいいなと思う。

また、キングスカイフロントは観光のための施設ではないが、2020 年になると橋が完成し、歩いて行けることができるようになる。ボストンにはフリーダムトレイルという、地面にラインがマーキングされており、それをたどると史跡を巡ることができるようになっている。羽田空港からは難しいかもしれないが、橋を渡ったところから川崎のロゴにちなんだ、赤、青、緑のラインに導かれてキングスカイフロントを一周するようなコースで、行く施設ごとに多言語で施設の説明看板があればいいと思う。そこを周ってもらっただけでも、川崎市の PR につながると思う。これはジャストアイデア的な意見ではあるが、せっかく隣接しているので何か実施していただきたい。このまま 2020 年を迎えると、気が付くと羽田空港が拡張され、後悔することになりかねない。

#### 沈委員

中国の知人もよく羽田空港を利用するが、川崎市が隣接していることはほぼ知られてない。私が他国の空港を利用するときに目につくのは、現地の写真である。現在の風景と過去の風景等。そうした写真を掲示するだけでも印象が変わってくると思う。また、羽田空港から川崎までの電車を利用するが、その沿線でも川崎の PR ができるように工夫してほしい。あと、中国に進出する日本の介護企業について調査していたが、この数年間に、大企業ではニチヤやベネッセ、また社会福祉法人等、多くの企業、団体が進出した。しかし成功例は少なかった。なぜかという、現地でコーディネーターを確保できなかったためである。現地に

自社の事業内容を理解させるための工夫がとても重要である。

#### 安永委員

羽田空港の件で1点追加を。旧羽田空港跡地開発が進んでおり、国際線ターミナルに近いところに、ホテルが建設されている。3つのタイプがあり、合計すると1,700室になる。これらのホテルが2020年の6月にオープン予定である。外国人も含め多くの方が泊まるようになるので、重ねて何かできないかという思いが強くなる。単に発着数が増えるだけでなく、滞在する人も増加するというところをご認識いただければ。

#### 鹿住委員

成田空港も素通りなどを危惧しており、爆買いブームはやや下火だが、近隣にショッピングモール等を建設し、バスで送迎し地元にお金を落とすような工夫をされていた。成田空港や千葉県、成田市等の取組も参考にしつつ、このチャンスを地域の活性化に繋げられればと思う。

#### 石川委員

羽田側（大田区）にインキュベーター施設が造られる動きがあつて、殿町や新川崎にもインキュベーター施設があり、これらは連動させたほうが川崎のため、大田区のためというのを越え、日本のためにいいのではないかなと思う。アカデミアと連携している殿町、新川崎があり、その対岸にもものづくり系の大田区の施設ができる。しかも羽田空港に隣接するとなると、日本全国やアジアから色々なシーズを取り入れようとする流れができるなど、いい条件が集まっていると思う。特に殿町は中小企業66社の研究施設が集まっているが、そのシーズを狙いに人が集まるので、各施設が連動することがひいては川崎のためになるのではないかなと思う。特に大田区との連携は重要だと思う。大田区の町工場とともに、対岸の川崎市の企業に視線を向けることができるようになれば、きっと日本を代表するようなインキュベーター地域になる気がしている。橋もできるので、それを活用し大田区との連携をより工夫いただければと思う。

#### 鹿住委員

大田区との連携という点では、P1の医工連携事業が大田区とされていると思うが、そのあたりはどうか。

#### 産業振興部長

工業振興課で大田区と医工連携事業を実施しているが、商業振興課でも銭湯の事業等で連携している。一緒に銭湯を盛り上げようと一体となってキャンペーンをしている。さらに観光プロモーション推進課でも、商業施設の取組みやイベントなどを連携して行っている。また、羽田空港関係については多方面からもご意見いただいております、市議会からも取組を求められているので、PRなど何か取り組めることがないか検討しているところ。川崎の魅力を発信していくことが大切であると考えており、藤子不二雄ミュージアム含め様々な川崎の魅力を伝えていく取組をしたいと考えている。

#### 堤委員

川崎市民でもあるのでお伺いするが、P15の観光振興事業の実績にあるインフルエンサーを活用した情報発信にある、藤子不二雄ミュージアムについて。小田急が登戸駅でドラえもんを使ったPRをして全国区のニュースに取り上げられたのは記憶しているが、市はドラえもんを活用した取組はしているのか。名刺にドラえもんを入れたのはいいい試みだと思った。ドラえもんは日本にとどまらず世界でも認知されたキャラクターであり、海外に訪問した時にドラえもんがついている名刺を配るのは大きな効果があると思った。ただ、キャラクターの使用料が結構高額であることは聞いているので、なかなか難しい面もあると思うが、実績欄に記載があるので何かされたのなら伺いたい。

#### 産業振興部長

藤子不二雄ミュージアムについては色々なご寄付などに基づき開館しており、その一環で市と連携した取組は継続的に実施している。また、小田急はミュージアムの沿線ということで、登戸でのPR活動については自ら一層の集客に努めようと取組まれていることである。ご指摘のとおり、ドラえもんの画像を使用するのは制約があり、コストもかかってくる。名刺については御協力いただき使用させていただいている状況。ただ、制約がある中で、どのように発信していくかが問題である。ドラえもんは知っているが、藤子不二雄ミュージアムが川崎にあることは知られてなかったりするのので、その発信はしていかないとはいえないと考えている。実績に関するインフルエンサーについては、彼らを川崎にご案内して、母国の方や観光客に受けがよさそうな場所を見ていただいている。実際に好評いただいたら、市としてもブログやHPに公表している。また、インフルエンサーの方にSNSなどで川崎のいいところを発信してもらっている。各国の著名なインフルエンサーの方とタイアップしながら実施している。

#### 堤委員

藤子不二雄ミュージアムの発信に活用しているということか。

#### 産業振興部長

ミュージアムにこだわらず川崎の様々な場所についてご案内して、どんなところに興味を示すかなどを伺っている。

#### 経済労働局長

外国人観光客の動態調査では、特に新宿あたりに宿泊されている方が生田方面に立ち寄った後、羽田空港に向かっているような動きが顕著である。課題としては、その動きをいかに市内に滞在するように仕向け、川崎大師など様々なところに訪問いただき、市内で消費してもらうようにするかということ。そういう点で、インフルエンサーなどを使って発信することは重要で、タイなどの観光客は実際に増えてきている。地域資源をいかに活用するかはこれからも考えていきたい。

#### 鹿住委員

いくつか同じような意見が、別の事業から出ている。P3での「デザインやセンスのアドバイスがいただける専門家がいればいい」やP4の「マーケティングのプロの視点があればいい」等。インダストリアルデザイナーやマーケティングプランナーと中小製造業とのマッチングというのはとても重要であると感じた。また、P8の生産性向上・働き方改革の事業においてテレワークの推進ということが出たが、雇用型のテレワークでなく、在宅ワーカーなどの独立型テレワークをされている方の中にはインダストリアルデザイナーやマーケティングプランナーが多くいるので、そうした自営業のプロフェッショナルの方々とネットワーク強化やマッチングをしていけば、こうした問題というのは解決に近づくのではないかと思う。以前に、在宅ワーカーの方にはなかなか仕事を積極的には依頼しない傾向があることは聞いたことがあるが、埼玉県では就業支援事業というのを5年位実施しており、発注側企業へのセミナー、指導アドバイス、それに加えマッチングを行っている。その事業を受託した企業に話を伺うと、ただ黙って“在宅ワーカーに外注しませんか”といっても、中小企業側はなかなか発注しない。なぜかという、経営者から見て切り出せる仕事はどこにあるのかが分からないからである。そのため、業務フローのどの部分が切り出し可能かまでコンサルティングしないと、その気にはならない。マッチングがうまくいくと、働き方改革や生産性向上に繋がってくるので、様々な事業の中に隠れているヒントを繋げて問題の解決に当たっていただくと糸口が見つかることもあるかと思う。

鹿住会長

次に、議題（２）の「平成31年度経済労働局主要事業について」を、事務局から説明を。

産業振興部長（資料2を説明）

鹿住会長

それでは、ご意見、ご質問ある方はどうぞ。

岩井委員

P11の「中小企業海外展開支援事業補助金」について予算額はいくらか。また、重点事業についての記載はどういう意味か。

国際経済推進室長

予算は500万円程度。重点事業については申請企業が「川崎ものづくりブランド」「低CO2川崎ブランド」等のすでに認定・認証製品を有する企業については、認定を有していない企業と比べると採択を優遇するという。また、補助上限額も少し上乘せするということである。

堤委員

この意味は2つあると考える。川崎市は「川崎ものづくりブランド」「低CO2川崎ブランド」等の事業を実施しているが、そこで認定を受けてもそのメリットをなかなか示せてない。そのため、このような制度に取り込んでいただけるのは非常にいいことだと思う。一方で、「川崎ものづくりブランド」「低CO2川崎ブランド」等の認定を取るインセンティブが働いて応募が増えるのではないか。その結果、ものづくり振興や環境啓発も図られると思う。いままで旗振りしても連携する事業がなかったので、募集していても応募が進まないという話を伺っていたので、きっかけとしてこういう措置はいいのではないかと思った。

沈委員

P10の「人材育成・確保」について。これから海外に進出するにあたり、川崎市自ら国際的な人材を育てなければいけない。先ほどもお話しした調査結果の中で印象的だったのは、海外進出の成功はやはり人材によるところが大きいということ。国際情勢をよく知っている人、あるいは川崎市に愛着があり理念等にしっかり共感している国際的な人材、特に外国人を育てるのはとても重要である。また、P12の「観光振興」について。生田緑地は素晴らしい観光資源だと思う。ぜひ活かしてほしい。海外の観光客は、子供を含む家族を沢山連れて来日する。そのため、インバウンド事業においては子供の視点が必要であると考え。子供が何か体験できる観光コンテンツがあればいい。もう一つは、観光は一回訪問するとリピートはしない可能性が高い。しかし「食」はリピーターが付きやすい。川崎でしか食べられないものの開発に力をいれたらどうか。最後に、仕事柄福祉事業の方と接することが多く、中国企業に市内中小企業の福祉器具をよく宣伝する。「なでなでねこちゃん」を紹介すると非常に興味を示した。観光と併せて福祉器具を体験できるようなことも考えてみてはどうかと思う。

鹿住会長

バイヤーや業者に対して訴えていくということか。

沈委員

どちらかというと個人。個人が国に戻って、川崎の素晴らしい場所や製品を宣伝することを期待している。

出口委員

観光振興について、予算事業としてはハード面が多いとは思いますが、ソフト面的な部分で、藤子不二雄ミュージアムや川崎大師等の写真をインスタグラムなどに掲載し「#（ハッシュ

タグ) かわさき photo」をつけてもらうような取組も大事だと思う。例えば、それを使って写真コンテストを実施し、いい写真を掲載した方には、パンフレットの表紙に掲載するなど。また、花火大会とセットにした外国人向けツアーパックを企画するなど。新しいことをすることも大切だが、既存にあるものをうまく活用して企画や商品にしていくと予算もかからずいいと思う。先ほどの食の話でもいえることだと思うので、今後検討いただければ。

#### 原田局長

一昨年、餃子祭りを川崎競馬場で実施したがすごい人出だった。食べ物の集客力は高く、様々な場所から来場いただいた。来年度も川崎競輪場で実施する予定である。また、既存のもので魅力発信ということでは、工場夜景がその最たるものだと思う。元々あったものの見方を変えることで観光資源として使わせていただいている。そういった工夫をしていきたいと考えている。

#### 鹿住会長

外国人向けに新しくツアーを作ることや、施設を整えるのはなかなか難しいと思う。ただ、私がシカゴで体験したような、ボランティアを活用した多言語ガイドのような取組だとそこまで難しくはないのではと思う。今は SNS で観光場所を探して、予め見つけてから訪問しているので、そこに外国人が参加しやすいようなオプションがあれば利用は増えるのではないかと思う。あと、交通アクセスについて考えると、例えば登戸から羽田空港まで乗車するとなると、何回か乗り換えをしなければいけない。日本人でも迷う人もいるので、(外国人向けに) わかりやすいように多言語で表示があるほうがいいのではないかと思う。

#### 出口委員

北海道では周遊パスが充実しており、外国の方もよく利用されている。そうしたパスがあることが、外国の方にも口コミなどで広がっている印象を持った。

#### 星野委員

観光とは異なるが、新川崎創造のもりのエリアについては以前より研究成果を上げられている。先日も、慶応の大西教授のリアルハプティクス技術を拝見させていただいて非常に感銘を受けた。そうした技術が展開されていることを知る人は少ない印象。FOMM という水陸両用の自動車を開発している企業もいらっしゃるの、そのような技術や企業の PR がもっと行われれば、かわさきのものづくりのモデルとして非常にいい形で表現できるのではないかと思う。特に大西教授の技術はノーベル賞ものであると思うので多くの人に知っていただきたいし、色々なビジネスチャンスにつながるのではないかと思う。

#### イノベーション推進室長

平成 29 年度までは川崎市産業振興財団が指定管理者として、大西教授のタウンキャンパスを含めたエリアの管理をしていた。今年度からは、財団だけでなくオープンイノベーションに取組む民間企業にも参画してもらっている。これまではインキュベーション施設に入っている方々の交流を促進することにフォーカスしていたが、よりエリア外から新川崎に来ていただくという視点を多く取り入れて、もっと新川崎を知っていただくという機会をより増やして活動を行っているところである。

#### 石川委員

3月18日に NEDO との起業支援施設をオープンすると思うが、正直あまり場所は良くない印象。でも、あの場所に行く誘因は何かというと、先ほどの大西教授のハプティクスの技術であるとか、殿町にいる iCONM の研究であるとか、東工大の秋山教授との研究等、それぞれアカデミアと組んで色々なシーズを実用化しようとする動きがある。ここに来るとそういう人たちと繋がるような打ち出しをしてもいいのではないかと思う。川崎の強みは新川崎等で 10 年以上ベンチャー支援を続けているところ。新川崎や殿町などの企業と繋がる

ということを示さないと、日本橋や渋谷のインキュベーション施設に持ってかれてしまうと思う。技術のあるベンチャーと繋がれることが分かっているならば、探してでも来るのではないか。メディアを有効に使うなどその点をうまくアピールすれば、この施設は成功するのではないかと思う。さらに IPO（上場）を果たすような企業が 1 社でも誕生すれば、さらに人が集まってくることになるだろう。

#### 鹿住委員

K-NIC はどのような方をターゲットとしているのか。NEDO が最近行っているベンチャー支援事業については、ほとんどが大学関係者である。NEDO としてターゲットとしている先端技術やハイテク関連事業の支援は大学関係者が占めている状況。この施設はその人たち向けではないようにも思うのでご説明いただければ。

#### イノベーション推進室長

資料 1 P1「起業家総合支援事業」の検証意見で、起業家塾や企業家オーディションなど、卒業生のネットワーク化について言及いただいた。こうした先輩起業家からこれから起業にチャレンジしようとする方がアドバイスをいただくのは非常に有効で、K-NIC という場所に行けば先輩起業家や起業会社等と交流が出来、ネットワーク化されるようなメリットがないとわざわざ足を運んでいただくことはできないと思う。イベントを数多く実施し、またメディアを通じここに来るとネットワークが作れるというメリットをしっかりと打ち出していきたいと考えている。また、対象者については、NEDO が研究開発系ベンチャーを支援しているのでその層も含まれることは確か。ただ、全体のパイからすると最先端の研究開発はごく一部である。日本全体の起業の盛り上げという部分に関してはあまり大きな部分ではないので、川崎市産業振興財団が参画しているのは最先端でなくても起業家オーディション等で長い間、幅広く起業を志す方を支援してきた実績があるから。検証意見で、一般のビジネス分野支援へのニーズもあるのではないかというのはまさにその通りであり、研究開発系は大学関係が多いが、全体的には一般の分野でのチャレンジが多いと考えて、双方含めて取り組んでいきたいと考え、NEDO と本市、川崎市産業振興財団の 3 者で運営していこうと考えているところ。

#### 沼委員

P7 の事業承継について。先日、セミナーに参加し、非常によいと感じた。制度やシステムが年々変更されるので、専門家のお話が改めて聞けてよかった。そこに参加されているかたは今後、自社事業を誰かに継承させたい方ばかりである。また、私は未来塾という会に参加している。同会はシティアクセスの山中社長が代表を務める会ですが、先日集まった時に、当時はサラリーマンであった方が数名いたが、昨年 1 名が独立し、今年また 1 人独立した。会の中で色々な方の話を伺っていると、“ワクワクする何かやってみよう”という感覚になったということをお話されていた。事業承継というのは渡したい側と渡されたい側がおり、なんとなく嫌々やっているようではうまくいかない。うまく事業承継させたいのであれば、渡す側もきちっと勉強する必要があり、渡される側もそれなりの心構えが必要。その 2 名の話から、勤めながらも中小企業の事業承継というものが経験できる、アドバイスがいただけるような場所があればいいのではないかと思った。あと、イベントについて。昼間のイベントが非常に多い印象であるが、先日「寄り道サーカス」というイベントを拝見した。夜の時間、少し大人な雰囲気が出ているイベントも素敵であると思うので、これからもあのようなイベントを実施いただければと思う。

#### 堤委員

事業承継支援事業について。第 1 回会議にて川崎の産業を維持するためには、新しい産業を生むということと、今の企業をどう維持していくかの両輪を回していかないと産業維持は

できないという話をさせていただいた。その中で、事業承継市場について、なぜ当初年度計画に入っていないのかお伺いした。時期的に間に合わないということで計画掲載はできなかったという話であったが、それを踏まえ今回このように目出ししていただいたことは非常にうれしく思っている。そうした中で、実際参加された沼委員から好評をいただき改めてうれしく思っている。先ほど、予算取りは 50 万円を少額である表現されたが、金額の大小ではなくこうして目出しいただくことで市のやる気が示され、予算取りをされたということで実際に従事する方も責任をもって動くことができるのではないかと思う。一度会議にオブザーバーで参加したが、事業を進めるにあたり後ろから押してくれる方がいないとなかなか前に進みづらい、先立つものがないとやりづらいという意見があり、今年度はそれぞれ持ち寄りで事業を組み立てていったことを聞いていた。このように取り上げていただいていることを自社に持ち帰り、関係部署の社員にも発破をかけたいと思う。

#### 産業振興部長

一昨年に協定を結び、今年度 M&A にも力を入れていこうと、専門的な企業とも協定を結び取組を進めているところ。予算化については、連携している 4 者が 50 万円ずつ持ち寄ってトータル 200 万円の事業規模の取組を実施しようと動いている。内容は資料 P7 のとおり。金額は大きくはないが、啓発から進めていきたいと考えている。事業承継の課題をお持ちの起業に、制度や取組を知っていただくことから始めたい。国や県の制度等も活用しながら、まずはセミナーの実施等による掘り起こしから進めていく。また、「寄り道サーカス」はまちづくり局が主催で実施しているタクシー広場を使ったイベントである。今後も、そうした事業を含め、街を上げて盛り上げるイベントを実施していくことを検討している。

#### 鹿住委員

事業承継については、後継者育成は重要な課題である。また、先ほどの創業支援と絡めて、飲食店などと居抜きで次の方が入ったり、医療機関だと器具そのままに引き継がれたりすることもある。そのように、飲食店も厨房機器等をそのまま安く譲渡して、創業されたい方が後を引き継ぐようなやり方もあるのではないかと思う。製造業だとピッタリなのは難しいかもしれないが、後継者いない方で同じような製造機器を使われている企業とマッチングすると、創業企業も初期投資が抑えられて創業しやすくなる。そういう広い意味で、支援対象者への情報共有を分野を越えてやっていただけるといいのではないか。

#### 岡田委員

PDCA サイクルをよりよく回していくこと考えながら、資料 1 と資料 2 を見比べると、事業を 1:1 の関係でみてはいけないということを改めて感じる。1 事業、1 項目について何を行うかではなく、1:N や N:N の関係なのではないかと思う。例えば、刃物の三大産地と言え、岐阜県関市、兵庫県三木市、新潟県三条市だった。最近は関市、三条市、(大阪府)堺市で外国人観光客が堺の刃物の関心をもって訪問している。それは、堺の体験型ツーリズムに因るところが大きいと言われている。また、三条市で実施された JETRO の地域貢献プロジェクトでは、バイヤーではなく(海外の)様々な分野のカリスマ(インフルエンサー)を呼び、産業ツーリズムを体験してもらった。なぜそれが可能となったかという、街の中にオープンファクトリーがたくさんあったからである。オープンファクトリーという取組が、産業ツーリズムという観光振興にも繋がっていくように、1 つの事業が色々な事業に関わっていくことになるのだと思う。そういう繋がりを考える横串を指す視点があると PDCA サイクルを回していくときに、次の CHECK,ACTION に繋がるような見方ができるのではないかと思う。別の自治体で振興基本計画を策定するにあたり、資料 2 の 2P のような施策一覧を、“この施策を実行するところにも関わる” というような矢印を引いていき、ツリー図を作成しビジュアルでわかるようにし、市民に配布した。わかりやすく理解してもらい新しい

アイデアが生まれやすくするというような、サイクルが回ると色々なところに派生してくる。これは企業社会も同じで、色々な方々が成功すると起業エコシステムに繋がり、第2創業を含む創業も起こってくるのではないか。同じ事が政策のPDCAサイクルにも言えるのではないかと思う。

鹿住会長

議題は以上となる。事務局から連絡事項等あればお願いします。

産業振興部長

特段ないため、以上で、閉会とさせていただきます。長時間にわたる議論に感謝する。

以上